

各部入賞者

◆◆決まる

「お米のよさを見直し、米の消費拡大を」と、市内小・中学校の児童・生徒を対象に募集していた「米消費拡大図画・作文コンクール」の審査が、このほど終わりました。

今年も各小学校から、子供たちの力作が多数寄せられ、その中から金賞十一名、銀賞十四名、銅賞二十名、佳作八十四名が選ばれました。

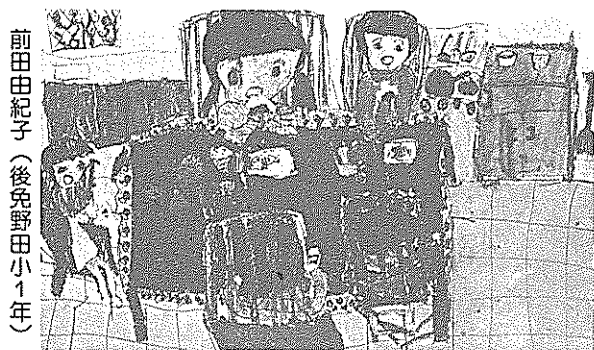
図画の部

上位入賞者の作品は、高知県米消費拡大推進協議会が行っている「米食見直し作文・図画」に

▽金賞 関田晃弘(後免野田) 前田由紀子(後免野田) 銀賞 松村美紀(後免野田) 溝淵智子(後免野田) 椛金里紗(大湊)



芝干津佐(国府小6年)



前田由紀子(後免野田小1年)

▽銅賞 小松妙子(後免野田) 崎宗光(後免野田) 武井直也(後免野田) 田内裕子(国府) 二年生の部
▽金賞 池映理子(後免野田) 平田淳子(後免野田) 銀賞 井上文代(大湊) 前田論(後免野田) 八木聡子(日章) 銅賞 田岡孝得(国府) 中村慎(後免野田) 永吉真澄(後免野田) 浜田悦志(久礼田)

木谷 沢村規江(十市) 野村明日香(国府) 銅賞 小松志帆(国府) 岩原誠(白木谷) 四年生の部
▽金賞 島井理奈(国府) 島田愛子(長岡) 銀賞 唐岩恵子(白木谷) 銅賞 永吉真紀(後免野田) 前田美佐(後免野田) 原禎子(久礼田) 高木弘暎(大湊)

米料理の部

▽金賞 変わり寿司(小田村生活改善グループ) 銀賞 にごり寿司(日章たばこ婦人部) おはぎかん(西島園芸生活部) 銅賞 ご飯入りゼリー(市村農協加工部会) かるかん(小田村生活改善グループ) うなぎと錦糸卵の押し寿司(能開生活改善グループ) だけのご寿司(市農協国府支所婦人部)

五年生の部
▽金賞 米谷類(大湊) 銀賞 浜口慎也(国府) 沢田幸代(国府) 銅賞 服部佐織(国府) 小松真琴(国府) 公文創一(国府) 六年生の部
▽金賞 芝干津佐(国府) 銀賞 田中美帆(日章) 銅賞 川田泰史(国府) 池添雅洋(日章)

おはぎかん

西島園芸生活部

①寒天を煮立て、砂糖・こしあめを入れて少しかために煮詰める
②①が仕上がる前にごはん(もち米)を入れて一煮立ちさせる
③②をさまし、ようかん流しに入れてさまして適当な型に切る。



変わり寿司

小田村生活改善グループ (作り方)

作文の部

お米

十市小学校4年

鍋島由美

「ごはんのこす」「おかずがまずい」。そのたび母も父も、さいごまでのこさず食べると、私をおこります。

わたしのおじいちゃんやんは農家です。若いときから、米作りをやっています。おじいちゃんやんは、田うえ、いねかり、しょうどくを何年も続けています。しょうどくは、分量をまちがえると、たいへんです。雨や大風のめぐみもなくしては、いけません。いねかりは、ほんとうに、あせ水たらしでやります。わたしも手伝いますが、その苦勞は、わたしも少しはわかっているつもりです。

(わたし、もういや、遊びたい。もうやめよう)
口のところで出かけます。でも、そのお米のいきいきした、すがたを見ると、そんなこと、ぜったい言えません。
おじいちゃんが「もうやめるかえ」と言うと、おばあちゃんも「もうえいわね」と言います。でも、

(作文総評)

市内の四年生から五十編ほどの作品が届けられました。

どの作品も、米の大切さを訴えるものでした。米の大切さを感じるときこととしては、家の米作りの手伝いをしたこと、給食の残飯を見たこと、家の人が米やご飯を大切にしている姿を見たこと、世の中の食料についての動きやアフリカの食料危機の問題を知ったことなど、なかなか幅広くあります。

しかし作品を全体的に見ると、米の大切さを言いたいということではなく、心から米って本当に大切

▽金賞 鍋島由美(十市小四年) 銀賞 唐岩恵子(白木谷小四年) 銅賞 土居可奈(十市小四年)

くご飯の給食を残します。

今、日本は、インスタントラーメンとか、パンとか、いろいろなものがあります。原料の小麦のほとんどは、外国から買ってくるのだそうです。お米を大切にすることを、いつのまにかわすれたようです。わたしたちは、お米を食べ、育て、育つのがふつうです。でも、

「お米」(十市小・鍋島由美さん)は、インスタント食品にたよらない食生活にしたいという強い願いが伝わってきます。

「ごはんを私」(白木谷小・唐

んのインスタントラーメンやパンが目につまっています。わたしには、どうしてそうなるのかわかりません。いっそうのこと、お米を大切にすることを、わたしはインスタント食品を食べても、お米よりおいしいとは思いません。わたしは、おじいちゃんやんの苦勞を考えると、もうたまりません。

「米作りの話」(十市小・土居可奈さん)は、かり入れの手伝いをしたときの苦勞がよく書けています。

「お米について」(大湊小・瀧和彦君)は、国の買い入れねだんが安くて、お百姓が困っていること、「お米について」(大湊小・松本昭彦君)は、米をこくます

つてもらって、インスタント食品を食べるのをへらすことだと思います。むりかもしないと思いますが、でもゆめはかなうでしょう。わたしがお母さんになったら、そのために努力するつもりです。とくに手づくりの食事を心がけます。ほんとうに願いがかなうように、お米を食べる人をもっと多くするために、お料理のしかたをたくさんおぼえて、インスタント食品のみよりに勝てる食事をつくります。そうすれば、お米はみんなに好かれるはずだと信じています。

日記や作文に米やその他の農作物と自分とのかわりを書き、自分の生活から切りはなすことができたいものであることを認識してほしいものです。

(日章小学校 上杉美和)